

No.214

# 林業ぐんま



**目次**

会長、環境森林部長あいさつ	1
林政情報	2
令和2年度群馬県建設工事表彰 林業労働力確保への取り組み	3
林業労働力の確保に向けて 森の談話室	4
三代続く地元製材所「新ライン」で効率化 各地のたより	5
(西部) 西部環境森林事務所建設工事所長 表彰式及び主任技術者研修会の開催 (吾妻) 皆伐再造林促進に係る (利根沼田) 現場視察研修会について 地域の取り組み	5
(富岡) 高校生インターンシップの 受け入れ 高校生と造林検査 (桐生) 「企業参加の森林づくり」で 森林整備	5
(藤岡) 将来を見据えた森林づくりを目指して 日野県有林での専門家派遣研修 (渋川) 味の素AGF株式会社による 赤城南麓水源林整備活動について 企業参加の森林づくり	5
地域を担う人	9
井上 明さん 吉田 康平さん	9
野本 隆也さん 神田 真二さん	11
読者からの投稿	11
群馬県森林・緑整備基金だより	13
分収林の管理・経営「本格的な収穫期に 向けて」	13
トピックス	14
第四十五回群馬県児童生徒 木工工作コンクール	14
お知らせ	14
群馬県林業試験場の成果報告動画の公開	14

総合建設業

確かな技術で豊かな未来を



KIGURE  
BCP認定企業  
ISO 9001 認証取得

## 株式会社 木暮組

代表取締役 木暮 唱

〒379-1115 TEL:(0279)56-2811(代表)  
群馬県渋川市赤城町溝呂木452 FAX:(0279)56-5428

群馬県リサイクル緑化協会会員 ISO9001 認証取得

## 上毛緑産工業株式会社

代表取締役 高橋 範行

◆ 本社 〒370-3607 群馬県北群馬郡吉岡町小倉 827-87 TEL 0279-54-7723 FAX 0279-54-8603  
◆ 仙台営業所 〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室 4-2-35 TEL/FAX 022-786-1406  
URL <http://www.jouryoku.com/> E-Mail [webmaster@jouryoku.com](mailto:webmaster@jouryoku.com)

～ 森と緑と笑顔のために ～

## 一般財団法人 群馬県森林・緑整備基金

〒370-3503 群馬県北群馬郡榛東村大字新井2935  
群馬県林業試験場 別館内  
TEL 027-386-5901 FAX 027-386-5902

森づくり、森林とのふれあいの促進、林業用資材の販売等をしています。

## (一財) 日本森林林業振興会

前橋支部

支部長 高嶋 伸二

〒371-0035 前橋市岩神町4-17-3  
TEL (027) 231-2270 FAX 233-0992

発行責任者 群馬県林業改良普及協会  
印刷者 杉浦印刷株式会社

令和三年一月十五日 発行

表紙の写真  
・令和2年度森林土木写真コンクール最優秀賞受賞作品  
・撮影場所 安中市松井田町西野牧地内  
・撮影者 西部環境森林事務所 青柳民生

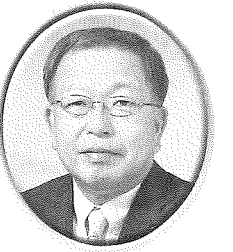
# 新春

2021

「林業ぐんま」はホームページでもご覧になれます  
<https://gun-fukyu.jimdofree.com/>

群馬県林業改良普及協会

# 林政情報



群馬県林業改良普及協会長  
狩野浩志

新年明けましておめでとうございます。皆様には、日頃から本会の運営に格別なるご支援、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、近年では、気候変動等の影響により、集中豪雨や台風等による自然災害が多発し、本県を襲った令和元年東日本台風（台風19号）や令和2年7月豪雨など、毎年のように全国各地で甚大な被害が発生しています。一方で、昨年1月から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界中を巻き込み、社会・経済が大きな打撃を受けた一年となつてしまいました。

頻発化・激甚化する山地災害の防止には、公益的機能を高度に発揮する継続的な森林整備が、極めて重要であります。この森林整備を加速するため、一昨年スタートした国の「森林経営管理制度」や「森林環境譲与税」二期目に入った「ぐんま緑の県民税」などの様々な取り組みを着実に推進することが大切で、この健全な森林整備を通じて、県民の安全・安心の確保や地球温暖化の防止につながっていくと考えています。

先の「群馬県森林・林業基本計画」において、メインの計画目標である素材生産量については、目標値の40万立方メートルを概ね達成することができました。これも川上から川下に至る関係者の積極的な取り組みの成果で、関係する皆様のご努力に対し深く敬意を表する次第であります。

このような中、県では、新たな森林・林業基本計画の策定が進められ、次期計画では、「林業・木材産業の自立」を掲げ、充実した森林資源の循環利用を促進し、林業産出額や山村所得の増加につながる施策を展開すると伺っている中で、当会といたしましても、次期基本計画には大いに期待しているところであります。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の収束の兆しが見えず、林業・木材産業も、需給の先行きが見通せないなど、厳しい状況が続いておりますが、本会といたしましても、全国の優れた取組み事例や最新の林業技術・生産システム等を皆様にご紹介しながら普及をとおして林業の発展に少しでも寄与できればと願っております。

## 令和二年度 群馬県建設工事表彰

群馬県建設工事表彰は、群馬県が発注した建設工事等を適正な工程管理と優れた施工技術によって完成させ、その出来形や品質が優れており他の模範となる方々を表彰することにより、建設業等の発展及び技術の向上に資することを目的として行っています。

令和二年度の環境森林部の表彰工事は、令和元年度に完成した契約金額五百万円以上の工事二百八十八件の中から、知事表彰四件、部長表彰七件が選ばれ、表彰式がそれぞれ九月十六日、十月十九日に行われました。また、所長表彰として、環境森林・森林事務所においても優れた工事を表彰しています。

受賞された皆様おめでとうございます。治山事業や林道事業などの森林土木工事は、平地での工事とは異なり、地形や地質、傾斜など、極めて厳しい条件において施工しなければならぬ現場が多く、受注される方々には並々ならぬ御苦労をおかけすることと思っておりますが、引き続き、安全

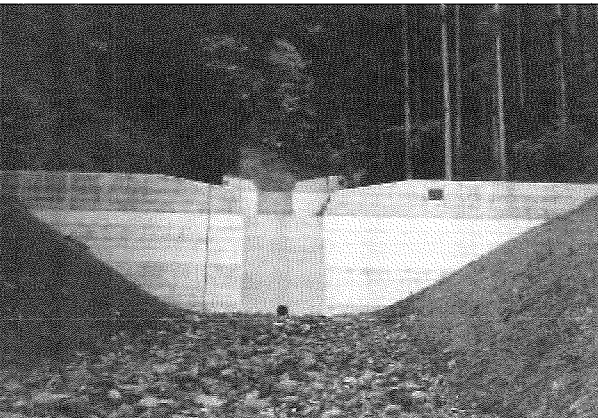
令和二年度 群馬県建設工事表彰(知事・部長)受賞者

知事表彰(環境森林部) 4箇所 4社	写真番号
施工者 勝野建設 勝野 政和 主任技術者 小菅 雅之 発注事務所 浅川森林	①
施工者 石坂建設 諸田 光二 主任技術者 千明 松寿 発注事務所 利根沼田環境森林	②
施工者 勝金子建設 金子 和利 主任技術者 金子 晴三 発注事務所 桐生森林	③
施工者 勝新井土木 新井 正則 主任技術者 大塚 孝二 発注事務所 桐生森林	④

環境森林部長表彰 7箇所 7社

施工者	主任技術者	発注事務所
勝水 暮組 木暮 唱	永田 勝	浅川森林
樋口建設 樋口 勝彦	樋口 富雄	浅川森林
勝研 屋 清水 一希	真下 了	西部環境森林
峰岸土木 峰岸 正船	上原 政次	西部環境森林
上毛建設工業 高橋 範行	納貫 志信	藤岡森林
池原工業 池原 純	市川 浩司	吾妻環境森林
勝山 藤組 山藤 浩一	井出 雅人	桐生森林

第一で高品質の工事を完成していただくよう、御協力をお願いいたします。(森林保全課)



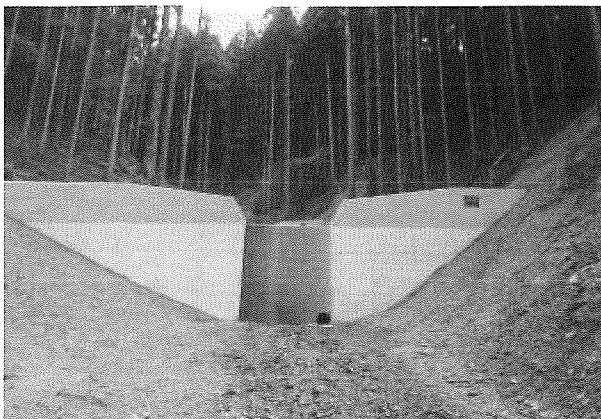
①北群馬郡吉岡町大字上野田(大畑)



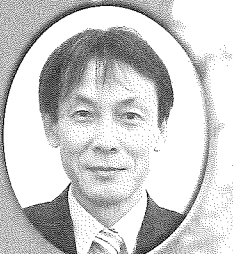
②利根郡昭和村大字糸井(芝坂ノ上)



③みどり市東町花輪(中ノ沢)



④桐生市黒保根町上田沢(南平久保)



環境森林部長  
岩瀬春男

新年明けましておめでとうございます。群馬県林業改良普及協会の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

近年、気象災害が激甚化・頻発化し、令和元年の台風19号や、令和2年7月豪雨など、毎年のように多くの犠牲者や被害が発生しています。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、社会的にも経済的にも大きな打撃を受けています。

気候変動の要因とされる地球温暖化も、新型コロナウイルスの感染拡大の背景にある生態系の攪乱も、人間活動の増大が地球環境に大きな負荷をかけたことが原因だと考えています。

群馬県では、災害に強く、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、2050年に向け、①自然災害による死者「ゼロ」、②温室効果ガス排出量「ゼロ」、③災害時の停電「ゼロ」、④プラスチックごみ「ゼロ」、⑤食品ロス「ゼロ」を合わせて達成することを目標とする「ぐんま5つのゼロ宣言」の実現に向けて取り組んでいます。

現在、森林・林業分野においては、自然災害による死者「ゼロ」、温室効果ガス排出量「ゼロ」の実現に資する、新たな森林・林業基本計画の策定を進めております。新しい時代に対応しつつ、本県の豊かな森林を次世代へ引き継いでいくため、大胆な構造改革により、高コスト体質の改善と収益性の向上を図り、自立した林業・木材産業の確立と県産木材による自立分散型社会の実現に向けた方向性を示したいと考えています。

また、全国上位の生産量を誇るこの産業については、「安全・安心なきのこの生産力強化」と「新たな需要創出と収益性向上」施策を講じて参ります。本年も市町村や関係団体の皆様と連携し、本県の林業・木材産業及びこの産業の発展のため全力で取り組んで参りますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

# 林業労働力確保への取り組み

## 林業労働力の確保に向けて

### 林業労働力確保支援センター

昨年の県内林業事業者を対象とした林業労働力過不足調査で回答を得た四〇事業者のうち七五%の三〇事業者が労働力不足と回答し、林業労働者不足が深刻になっていました。しかし、コロナ禍の影響による木材需要の急減により、求人数が減少してきました。ちなみに本県の有効求人倍率は、1.08倍で、昨年同期の1.67倍（群馬労働局調べ）と比較して、大きく低下しています。

一方、国有林では、間伐と作業道作設とセツトになった、事業が大幅増で発注されています（写真1）。材の販売は、森林管理署で行うため、材価に左右されず作業が行えるため、コロナ禍においても受注業者は、協力会社を探すほか、ハローワークへ求人を出すなど積極的な経営を行っています。

県林業労働力確保支援センターでは、林業就業希望者の相談を月曜～金曜までの毎日、受け付けています。また、県林業振興課、群馬県森林組合連合会等と連携して、林業就業相談会を行うなど、林業事業者の募集に取り組んでいます。十一月に東京国際フォーラムで行われた森林の仕事のガイダンス（写真2）

では、二六名が群馬県ブースを訪れました。一～二月にかけて、開催される県主催の林業就業支援講習に参加を希望している方もいますので、林業事業者の増大に向けて、情報提供を行っていきたく思います。

巡回訪問した林業現場では、当たり前前に、高機能ヘルメット、安全ズボン、安全シューズを着用しています。安全旗の掲揚や作業系統図掲示している現場も見られ、安全対策への意識が上がってきています。

新規就業者は、緑の雇用研修で安全器具が支給されることなどから、就業時から、安全器具を着用していることで、着用することが当たり前となっています。

当基金では、林業事業主に、安全器具購入支援を行っています。令和二年度は、二七件の支援を行っています。支援例としては、高機能ヘルメット、高視認上着、防護ズボン、安全シューズ等です。最近では、熱中症対策としてファン付きジャケットを購入する事業者が増えています。

いずれにしても、安全器具の着用が当たり前となり、安全で快適な労働環境により、林業労働災害を減らしていくことが、労働者確保にも繋がるものと思います。

# 森の談話室

## 三代続く地元製材所

### 「新ラインで効率化」

小井土製材株式会社 取締役社長  
小井土 義治さん

甘楽郡下仁田町南野牧で、三代続く製材所、小井土製材株式会社を紹介します。

小井土製材株式会社は、昭和三十年代に現在社長の義治さんの祖父様が始められたことで、現在の義治社長が三代目です。小井土製材のある下仁田町は、昔から製材業が盛んな地域です。義治社長によると、かつては地元木材組合の中に、青年部が組織され、若い世代が集まり、意見交換が活発に行われていたとのこと。今では製材所の数が減り、木材組合の青年部はなくなってしまい、寂しいかぎりということですが、青年部時代に交流のあった方々が今ではそれぞれ社長になり、地域の製材業を引っ張っているとのこと。

小井土製材株式会社は、平成二十二年に構造材、平成二十九年にツーバイフォー材のJAS認証工場となり、県内では数少ないJAS認証工場の一つです。年間丸太消費量は約一万三千立方で、さらに増加傾向にあるとのことですが、取り扱う製材品の出荷割合は、在来工法用住宅用材が約5割、ツーバイフォー材が約2割、輸出用フェンス材が約3

割とのこと。

小井土製材の特徴の一つとして製材品の輸出が上げられます。輸出しているのはフェンス材で、商社を通じアメリカへ運ばれ、現地のホームセンターなどで販売されているとのこと。アメリカでは日本のスギ材は、「ジャパニーズレッドシダー」として、人気が高いようです。

小井土製材株式会社では、令和二年春から新ラインが稼働しており、この新ラインには二系統のラインがあり、ツーバイフォー材と輸出用のフェンス材を挽いています。義治社長は従来の製材設備では三人で行っていた作業を一人でこなせることで、省力化により人件費が抑えられるとおっしゃっていました。この新ラインを担当しているのは、今年入社した、義治社長のご子息の翼さんです。

また、小井土製材では、市場での丸太購入のほかに、地元森林組合と連携した、山土場から製材所といった、丸太の直送システムを導入しています。この直送システムでは、山で二、四メートルに造材したものを製材所へ直送してもらい、ツーバイフォー材、輸出用のフェンス用材として挽いています。

最後に、お忙しいところ「森の談話室」の取材に御協力くださいました小井土製材株式会社の小井土社長を始め、関係者の皆様感謝するとともに、この地域の製材所が若い世



向かって右が義治社長、中央がお父様の文雄会長、左がご子息の翼さん



令和二年春から稼働した新ライン

代に引き継がれ、ますます発展することをお祈り申し上げます。  
(富岡森林事務所通信員)



写真2 林業就業相談



写真1 はい積みされたスギ材(2m)



# 各地の便り

## 高校生インターンシップの受け入れ 高校生と造林検査

昨年に引き続き当事務所では富岡高校の生徒のインターンシップを受け入れました。

林業の後継者確保は大きな課題となつていくことから、森林事務所の仕事を体験することにより、林業とはどのような仕事なのかを知ってもらい、少しでも興味を持ってもらうことを目的に行いました。

生徒は、富岡市や近隣から通学する高校生三名で、林業の前線に触れるのは初めてのことでしたが、うち一名は、自宅周辺で問題となつている獣害被害について関心が高く、将来的には狩猟免許の取得を目指しているとのことでした。

今回のインターンシップでは、林業機械の稼働状況や、きのこ生産者を訪問しての生産工程の体験や森林事務所内で原発事故によるきのこの放射性物質検査の体験を行うとともに、造林検査に同行して、造林や間伐、獣害対策を実施している現場を見てもらうこととしました。

獣害防止については防止柵の内側と外側の食害の差を確認し、また、忌避剤散布箇所については効果的な散布方法について森林組合職員から説明を受け、対策の必要性を理解してもらいました。

動に動きました。

開会式には、荒木恵司桐生市長にご出席いただき、ボランティア活動へのお礼と励ましをいただき、皆で記念写真を撮影した後、2班に分かれて刈り払い作業を行いました。

参加者は各自が準備した刈り払い機で広葉樹林内の下草やササ類を刈り払いました。すでに十四年も継続して活動を続けている成果でしょうか、シノザサの成長も抑制され、広範囲の作業も順調に進み、2時間ほどの活動で快適な景観に整備されました。

(株)ミツバ及び森林土木建設協会は、県内各地で企業参加の森林づくりによる森林整備ボランティアを実施しており、当事務所管内でも、前述の二カ所の他に桐生市新里町及びみどり市市有林で活動を実施しています。今後も息長く活動を継続し、地域の森林環境整備に貢献されますよう祈念いたします。



森林土木建設協会の森林整備

(桐生森林事務所通信員)

また、なぜ補助金が支払われるのか、なぜ必要なのかについて、造林事業、作業道事業などを例に説明をしたところ、興味を持って質問をしてくることもありました。

振り返りでは、きのこ産業への放射能の影響や、獣害対策、有害鳥獣駆除など興味のあることについて、今後も学んでいきたいといった回答がありました。

今後も林業に関心を持つ若者が、一人でも増えるよう取り組んでいきたいと思えます。

(富岡森林事務所通信員)



伐倒木の年輪計測

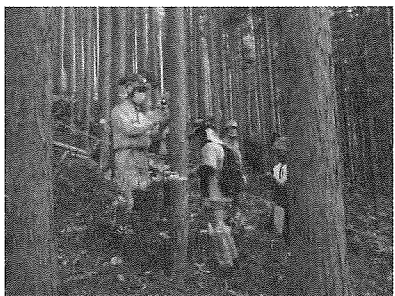


獣害防止柵の設置状況確認

## 将来を見据えた森林づくりを目指して 日野県有林での専門家派遣研修

十一月十九日、二十日に多野東部森林組合がステップアップ研修を実施しました。講師に森と木の技術と文化研究所の内田健一さんをお招きし、講義と実習が行われました。

内田さんは長期目標をもって育林するべきとの考えで、ドイツなど林業先進国で行われている「将来木施業」が紹介されました。「将来木施業」とは、間伐の際に将来の皆伐まで残す木から選木し印を付け、次に伐倒木を選木するというものです。残す木は通直・完満・成長が良い等、伐倒木は生長遅れ・曲がりなど通常の間伐と同じ考えですが、バランス良く将来木を配置し伐倒木を選木するための目安として「相対幹距比(Sr)」を利用します。ただし、相対幹距比にこだわりすぎず、森林の状況に応じて柔軟な考えで選木するべきと



選木の様子

のことで、間伐遅れ林分では数年に渡り複数回に分けて間伐したり、理想的な相対幹距比(Sr) 18〜20)にするなど、現場での思考力が求められる

## 「企業参加の森林づくり」で森林整備

今年度は新型コロナウイルス感染症対策で、多くのイベントが中止や休止に追い込まれています。現在は、感染者数の増減を繰り返す中、安全に配慮しながら少しずつ活動を再開している状況です。この秋、十一月十八日(水)に(株)ミツバがぐんま昆虫の森で、十二月七日(月)に桐生市菱町四丁目の市有林で群馬県森林土木建設協会による森林整備ボランティア活動が行われました。

(株)ミツバは例年、社内公募により百名近い社員と家族が、刈り払いや木工工作を楽しんでいましたが、今回は規模を縮小し、スタッフ中心に数名で下草刈り、除伐を実施しました。



(株)ミツバの森林整備

森林土木建設協会は、冷え込みが厳しくなつた十二月七日、参加者三十九名が感染症対策に配慮しながら、森林整備活



目立て実習

講義後は日野県有林で、技術職員がベテラン・中堅・若手の三班と、技術員の一班に分かれ、標準地を作り選木を行いました。ベテランにとっ

ては今まで学んだことや経験上知っていたことの再確認だったようで、容易に将来木と伐倒木を選木していません。中堅は相談しながら手際よく選木して行きました。通常は一人で行う作業を話し合いながら行うことで、お互いの考え方がわかる良い機会になったようです。若手は選木経験が少ない上に胸高直径四十センチメートルのアカマツが一本あったため苦戦していました。内田さんによると、アカマツは一定の需要があるので残しておいた方がよいとのことでした。

二日目に行われた刃物の手入れ実習では、内田さんが手入れをしたナタやチェーンソーで切れ味の良さを体感しました。研ぎ方や目立てなど道具の手入れの重要性を改めて見直す良い機会となり、研修終了後も各自が熱心にメンテナンスに取り組んでいました。

(藤岡森林事務所通信員)

# 各地の便り

## 味の素AGF株式会社による赤城山麓水源林整備活動について、企業参加の森林づくり

「企業参加の森林づくり」による味の素AGF株式会社（代表取締役社長 品田英明氏、以下「AGF（株）」）の、前橋市三夜沢町における森林づくり活動を紹介します。

「企業参加の森林づくり」とは、企業等が社会貢献として行う森林整備に、県が森林所有者との仲介等で支援する事業です。

AGF（株）は、平成27年に協定を結び、三夜沢赤城神社西の2.6haの森林整備に着手し、その後周辺森林へも拡大しています。今年度新たに地元森林所有者及び前橋市と「森林整備の活動等に関する協定」を締結し、現在の協定締結面積は11.4haに及んでいます。

この活動区域は赤城山麓に位置し、森林内には豊富に水が湧き、雨乞い伝説が伝わる巨石「硯石」もあります。湧水は赤城山麓を流下し、荒砥川、広瀬川を経て利根川に注がれます。AGF（株）の関連企業で、太田市世良田のAGF関東（株）の工場では、ボトルコーヒーを生産し、利根川水系の水を使用しています。この繋がりから、水源地である三夜沢の森が森林整備活動地として選ばれ、「ブレンディ®の森」と名付けられました。活動の目的は、①「森を整備し、水資源を保全する。」②「社員が活動を体験し、環境を

## 地域を担う人

利根沼田森林組合

井上 明さん

一 趣味  
スキー・釣り  
二 今後の抱負  
緑の雇用で学んだことを活かしつつ、仕事をしていきたい。先輩たちのようにスムーズに作業をこなせるように頑張っていきたい。



活動に参加したAGFグループ社員

意識して業務に勤しむ。」とされ、「ボトルコーヒーの製造に使用する水量の100%以上をかん養する森林面積を整備する。」ことを目標としています。これに向かって赤城南麓森林組合の協力を得ながら、社員が毎年森林づくり活動に参加し、下刈、獣害防止柵設置等を実施しています。また、得意先の県内小売業者のお客様を招待して植樹体験を開催する等、多様な森林づくり活動も展開しています。これらの森林づくり活動の積み重ねが実を結び、活動区域内のスギ植栽地が、保育状況等で高評価を得て、令和2年度第70回群馬県造林品評会で最優秀賞を受賞し、更にこれが本県代表となって第59回農林水産祭でも「農林水産大臣賞」を受賞しました。AGF（株）の森林づくり活動に、地域の期待が寄せられています。

（渋川森林事務所通信員）

# 地域を担う人

下仁田町森林組合

吉田 康平さん

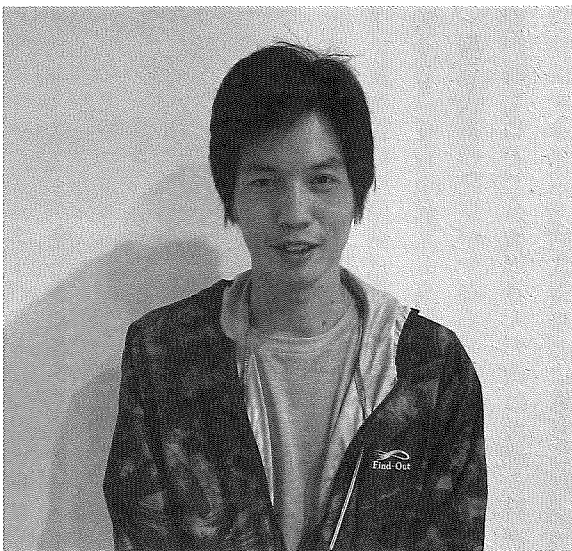
一 趣味  
機械いじり  
二 今後の抱負  
1つ1つの作業のレベルを上げていきたい。



(株)清水インダストリー

野本 隆也さん

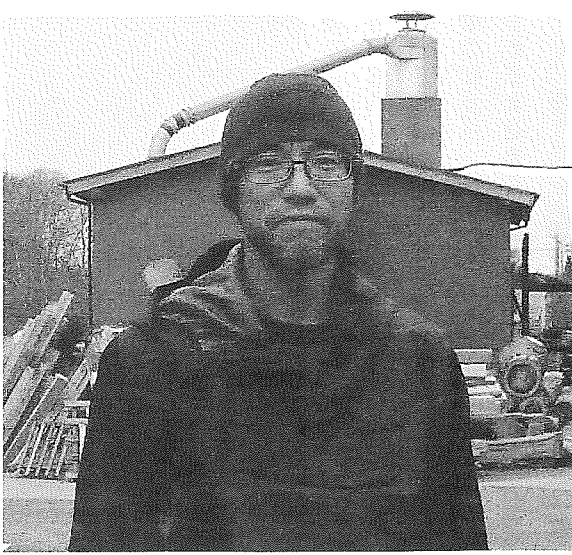
一 趣味  
競馬  
二 今後の抱負  
FW研修では多くの知識を習得する事ができました。基準や規程どおりにやるだけなら技術者になるのは簡単だが、現場での判断が重要視される林業では技術者のプロ意識が求められると知りました。今回の学習を今後の仕事に生かして、さらにフォレストリーダーを目指していきたいと思います。



篠原木材株式会社

神田 真二さん

一 趣味  
木工・工作・DIY・キャンプ  
二 今後の抱負  
林業の仕事はチェーンソー・重機などを使う作業で、一歩間違えば大きな事故や怪我になるので、何より安全第一で林業の仕事が続けていきたいです。





分収林の管理・経営～本格的な収穫期に向けて～

当基金は群馬県で唯一の森林整備法人として、平成二十五年より旧林業公社から譲渡を受けた分収林の管理・経営を行っています。現在の契約面積は一八七六ヘクタールとなっています。

この分収林管理に当たり、平成二十六年三月に「林業公社の二の舞にはならないー同じ轍は踏まない」こと、「おー良い山になったねと言われる山づくり」を理念として「分収林の管理・経営方針」を策定しました。

平成二十九年九月には、「公益的機能を發揮する森林づくり」、「収益の確保、合理的・効率的な経営」を一層推進するため施業方法を見直し、改訂を行いました。

改訂の背景

令和五年度以降、毎年五〇ヘクタール以上の分収林が契約満期を迎え、本格的な収穫期となります。

しかし、現在の木材価格では再造林費用を捻出できないことや鳥獣被害の増加など皆伐再造林を取り巻く環境は依然厳しく、造林木の売り払いによる分収が困難な状況です。

この状況下にあつて、当基金の責務である分収林の適切な管理と合理的・効率的な経営に向け、分収方法及び施業方法について契約者との協議を早急に進める必要から次のような見直しを行いました。

森林区分と施業指針の見直し

これまで、①森林資源の現況、②森林評価額、③再造林の確実性の観点から分収林を三分区分してそれぞれの区分に応じた目標林型を定めてきました。

改訂後では、これに④期間延長による利用間伐での収益性を観点に加えることで、五区分とし、目標林型と施業方法の見直しを行いました。(表1)

分収方法に応じた収穫基準

契約満了により伐採を行った場合、伐採跡地が放置されることも懸念されます。

伐採後の更新を確実に実施することが困難な場合は、必要に応じて、契約期間の延長により間伐や択伐を実施するなど立木材積による分収も考えられます。

分収実施と契約解除に当たっては、土地所有者に理解が得られるよう十分に協議を進めてまいります。

今後とも関係者皆様のご協力をお願い申し上げます。

記号	区分	区分の基準	分収時期等	分収の方法	目標林型	施業の方法	区分
A	経営森林Ⅰ	・植栽木が健全に成長 ・主伐により簿価の回収が可能 ・主伐後の再造林が確実	契約期間終了時	立木売払代金	標準的伐期の皆伐林	間伐による中庸の密度管理	経営対象森林
B	経営森林Ⅱ	・植栽木が健全に成長 ・主伐により簿価の回収が可能 ・主伐後の再造林が困難	契約期間内	基金持分相対額による譲渡	長伐期林	択伐林への誘導	条件不利森林
			契約期間延長	間伐、択伐による立木材積			
C	機能維持森林	・植栽木が健全に成長 ・主伐による簿価の回収が困難	契約期間延長	間伐、択伐による立木材積	長伐期林	間伐の繰り返しのによる下層植生の維持	条件不利森林
D	条件不利森林	・植栽木が健全に成長 ・地形、地利等の条件が悪く、収益が見込めない ・簿価が0円	契約期間内	無償譲渡による解約	針広混交林	強度間伐による大径木と高木性広葉樹の育成	条件不利森林
E	不成績森林	・植栽木が健全に成長せず、広葉樹林、竹林等へ移行中 ・植栽木による上層木の樹冠占有率が70%未満 ・簿価が0円	契約期間内	無償譲渡による解約	針広混交林又は広葉樹林	原則、施業は行わない	不成績造林地

表1 森林資源の現況等による分収林の区分

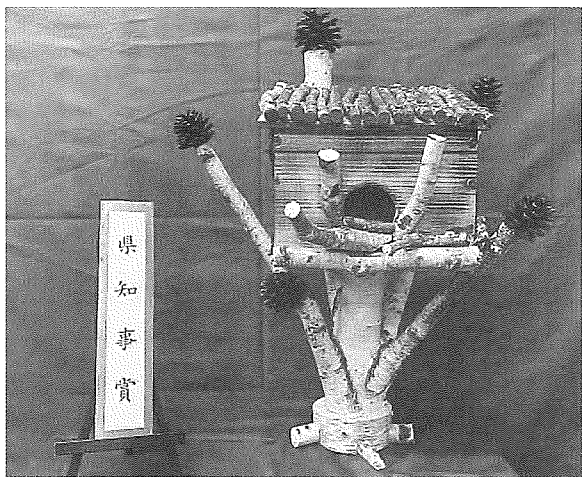
トピックス

第四十五回 群馬県児童生徒木工工作コンクール

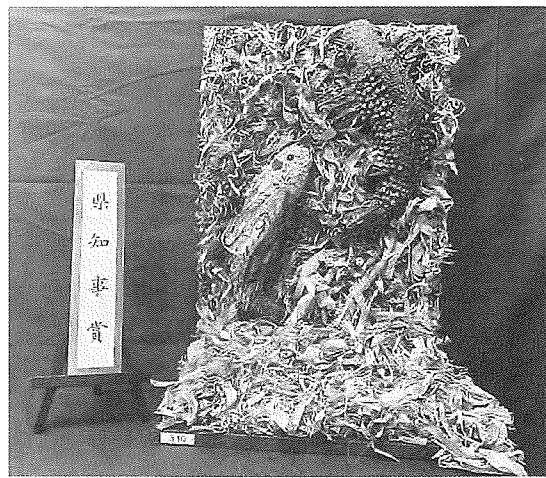
県内の小・中学生に「木材の良さ(温かさ・加工しやすさ等)」を知ってもらうために、木工工作コンクールを開催しました。

出品された作品は、全体的に木の質感や色合いがうまく利用されている作品が多く、木の魅力が存分に表現されていました。また、加工された木材だけでなく、木の枝や木の実などを生かした作品もたくさんあり、多様な表現の面白さ、美しさを感じさせてくれました。

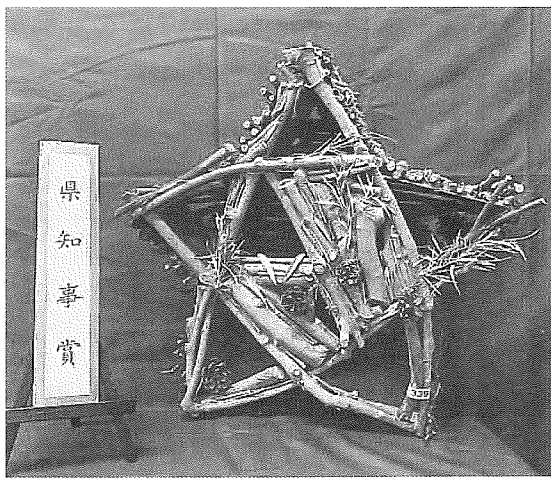
群馬県知事賞受賞作品は次の三点です。



【小鳥別荘】  
安中市立松井田小学校 金森 大祐 (5年)



【鯉の滝登り】  
高崎市立中川小学校 猪内 悠生 (6年)



【星型鳥小屋】  
高崎市立桜山小学校 清水 權実 (6年)

◆十月三十日(金)～十一月一日(日)まで県庁一階県民ホール北側にて作品展示が行われ、延べ七五九人の来場がありました。

お知らせ

群馬県農林水産業関係機関成果発表会

毎年2月に開催されていた、群馬県農林水産業関係機関成果発表会が新型コロナウイルスのため中止されたことから、林業試験場では群馬県公式YouTubeチャンネル「tsuinoms」において、4つの研究成果の動画をお届けします。公開日は令和3年2月10日(水)を予定しています。

問い合わせ先・林業試験場

TEL 027・373・2300

